

関係者ヒアリング結果概要

1 日時

令和3年5月17日（月） 11時00分～12時00分

2 場所

オンライン開催

3 対象者

宮城 ユキミ 氏

4 対応者

出入国在留管理庁政策課外国人施策推進室 木村室長 ほか

5 内容

（自身の経歴等について）

- 10歳のときに日本語を全く話せない状態で来日した。日本の公立の小・中・高等学校で教育を受け、静岡文化芸術大学に進学した。現在は日本の一般企業に勤務している。
- 日本の小学校には6年生から編入したが、最初は習字や音楽の授業、給食の配膳など、ブラジルの小学校との違いに戸惑うことが多かった。
- 編入直後は取り出し教室で日本語等を学んだ。宿題については、読書であればポルトガル語の本でもOK、書き取りであれば取り出し教室で学んだ簡単な漢字の書き取りでOKなどの配慮があった。単に宿題を免除されたわけではなく、レベルに合わせた宿題になるよう配慮してもらったところがポイントだと思う。
- 中学校では日本語教室に通うことを勧められたが断った。理由は、日本語教室に通うためには、午後の授業を全て休まなければならなかったから。特別扱いをされることが嫌だったし、他の科目に遅れが出ることも嫌だった。日本語教室に行かない代わりに自分で勉強を頑張ることにした。徐々に勉強に追いつくことができるようになり、部活動を通じて上下関係等も覚えた。その一方で母語であるポルトガル語が衰えていくことも感じた。
- 日本語もポルトガル語もどちらも中途半端になるよりは、ブラジル人学校に進学してポルトガル語できちんと教育を修了しようと思ったが、高校進学の際に担任から「日本の学校に行かないのはもったいない」と言われ、ポルトガル語を学べる浜松市立高等学校のインターナショナルクラスを教えてもらった。ここを目標に必死で勉強し、同校に進学することができた。

- 浜松市立高校において自分と同じようなクラスメートに出会うと同時に、進学を果たした自分のような存在が珍しいということを知った。自分の経験を活かして何ができるかを考えた結果、大学進学をしようと思った。
- 大学では、外国にルーツを持つ中学生の学習支援、外国にルーツを持つ子供の小学校入学前の体験教室、任意団体COLORSの立上げ、外国ルーツの子供の大学見学など、自分にしかできないことをモットーに様々な活動に携わった。また、外国人集住都市会議において講演も行った。

(COLORSとしての活動等)

- 浜松市国際交流協会(HICE)のイベントにゲストスピーカーとして呼ばれたことをきっかけに、様々なルーツの人と継続してイベントをできる団体を立ち上げようということになり、平成25年頃、HICEと連携してCOLORSを立ち上げた。
- COLORSとしての活動は現在も継続している。具体的には、高校に出向いてワークショップ等を行う出張COLORSのほか、講演会、イベントの運営・実施等。最近は定時制高校から依頼を受けて、総合的な学習時間の科目としてカリキュラムを組み、キャリア形成を支援するなどの活動も行っている。
- 出張COLORSにおいては、定時制高校に行くことが多いので、そこで生徒に対して正社員と派遣社員の違いを説明する取組や、キャリアについて説明する取組を行っている。
- また、COLORS以外にも、IIECという団体で外国にルーツを持つ中学生の学習支援のコーディネーターや母語支援(主にポルトガル語)を行っている。
- 今後はCOLORSとして就職応援セミナーを引き続き行っていきたい。また、高校卒業後の進路支援に力を入れたい。

(外国にルーツを持つ子供の教育について)

- 取り出し教室の長所は、来日後まもない子供に対して日本語学習等の学習支援、学校生活での困りごとの相談、心のケアをできること。ただし、これは担当教員に非常に左右される。
- 取り出し教室の短所は、他の科目の学習の遅れにつながり得ること、取り出し教室が長期化すると外国人の子供が集まってさぼり場になってしまう可能性があること。目的と期限を定めて取り出しをすることが必要である。

- 取り出しの必要な科目の見極めも重要である。これまで出会った子供の中には、算数の時間も取り出し教室で日本語ばかりを学んでいたために、中学生になっても分数が分からない、九九もおぼつかないという子供がいた。取り出し教室のせいで学べなかった科目について、どうやって遅れを取り戻すか対策が必要だと思う。
- 外国にルーツを持つ子供に対する入学前のプレスクールはあるが、途中編入の子供に対してはこのような制度がないので、同様の制度が必要だと思う。それを通じて、学力測定を行うとともに、日本の学校のルールや学校生活に必要なもの等を伝えていくとよいのではないか。
- 外国にルーツを持つ子供の高校進学の際の一つは経済面。公立高校は無償化されたものの、制服、体操服、教科書代、交通費がネックになっているケースはある。家庭によっては、親が出稼ぎに来ているので、子供にも早く働いてほしいというところもある。また、子供自身の日本語能力の問題もある。
- 外国にルーツを持つ子供は多様化しており、支援する側も大変である。日本生まれだがずっとブラジル人学校にいて日本語が話せない、日本の公立学校に通っていたためにポルトガル語が話せない、日本語もポルトガル語も会話はできるが論理的な思考ができないなど、様々なケースがある。子供や地域によって必要な支援は変わってくると思う。
- 母語継承も大切だと感じている。ポルトガル語で会話をできる友達がいるか否かで、母語の維持の可否が変わってくる。
- 日本語教育については、外国人集住都市では盛んに行われている一方、それ以外の地域ではそうでもないなど、地域によって格差がある。統一的な教材を作るなどして、日本語教育の機会が平等に与えられるとよいと思う。
- 自分の小学校時代の日本語学習のモチベーションは、友達と話したいという気持ちだった。中学生以上の子供については、友達と話すことだけでなく、将来を見据えて「日本語を話せたらこういう仕事につくことができる」「日本語を話せたらこういう生活をできる」というモチベーションを提示できればよいと思う。

(外国にルーツを持つ子供の保護者に対する情報提供について)

- 外国にルーツを持つ子供の教育・進路は保護者に左右されるところが大きい。日本の学校制度や授業の内容、学歴が将来に及ぼす影響等について外国にルーツを持つ子供はもちろん、保護者に対しても情報提供をしていくことが必要である。

- 特に、義務教育以降の教育については、義務教育と比較して情報提供が少ない。一例として、定時制高校と全日制高校の違いがあまり分からず、日中働ける定時制高校の方がいいと思うブラジル人家庭は多い。義務教育以降の教育に関する情報提供について改善が必要だと思う。
- 教育支援のボランティア団体等に子供を通わせている親は子供の教育に関心があるため、そのような場所で親に教育関係の情報を提供したらよいのではないかと考えている。その際の発言者は、日本人よりも日本で子育てを経験した世代の外国人の方がよいように思う。
- 外国ルーツの子供の不就学の原因は、日本の学校に馴染めなかったパターンと外国人学校に入ってみたが退学してしまったパターンがある。前者については、日本の学校がどのようなところか、子供自身と親に十分に伝える必要がある。後者は月謝を払えないなどの経済的理由によるため、それに対する支援が必要である一方、日本の学校に転入するならば、同じく子供と親への情報提供が必要である。

(外国にルーツを持つ若者の就職等について)

- ブラジル人学校を卒業したものの、履歴書の書き方が分からない、面接にどんな服装で行けばいいのかわからないなど、就職の方法が分からず、なんとなくアルバイトをしたりフリーターになったりする若者は多い。ブラジル人学校の出口戦略が必要だと感じている。今後は会社見学を企画するなど、就職支援をできればと思っている。
- 自分自身が日本の企業に就職して正社員として働くことで、同じような外国ルーツの若者に日本の会社に就職するという選択肢を示すことができるのではないかと考えている。一生日本で暮らすのであれば、安易な選択をせず、仕事を選んでほしいと思う。

(行政への要望)

- 公立高校に国際科のようなクラスを設置してほしい。自分自身も公立高校のインターナショナルクラスに進学した。3科目で受験でき、総合得点で合否が決まった。勉強はできるけれど、日本語力が不足している子どもにとってはこういうクラスがあるとよい。また、このようなクラスがあることによって、同じ学校に通う日本人の生徒に対しても多文化共生の価値観を提供できると思う。
- 外国にルーツを持つ子供の母語支援について、様々な団体が実施しているが、ほとんどの団体が人材をボランティアに頼っているため、なかなか続かない。また、人が集まることのできる場所の確保も困難である。経済

的支援及び皆が集まれる場所の提供を行ってほしい。

- 行政の情報発信に関しては、多言語化も行われているが、必要などころに届いているのか疑問がある。ブラジル人コミュニティはF a c e b o o kなどを通じて情報を得ていることが多い。L I N EやW h a t s A p pのようなS N Sの活用が必要ではないか。

(その他)

- 外国人に対する差別・偏見は10数年前より改善されてきたと感じる一方、ゴミ捨て場が散らかっていると外国人の責任にされる、国籍を理由に住居の賃貸契約を断られるという話はよく聞く。
- 共生社会の実現のために、特に子供に対して国籍を含む多様性、個性を発揮することの重要性等を教えられたらよいと思う。

以上